

# 働き方を見直して

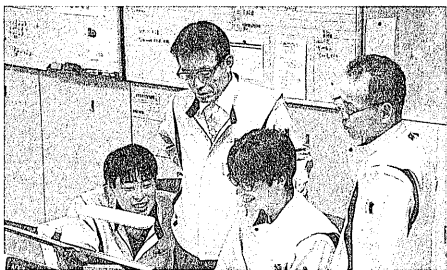
佐野 明郎氏

かつて、繁忙期の10月〜3月ごろは深夜残業が当たり前という環境で、何年もの間、社長も社員も「何かしなければ」と感じながら、思い切った手を打つことができないでいた。しかし、「やらなければならぬ」という強い意志の下、社長と社員とが一丸となって残業時間削減の取り組みを開始することとした。

まず、退社目標時間を19時半と決定し、社員一人ひとりがその時間に退社できるように効率的な働き方を追求。さらに、上司との相談で仕事の見直しなど今以上に徹底したコミュニケーションを図り、大幅な残業時間の削減につなげた。「その後、19時半で帰ることが可能と分かり、現在ではほとんどの社員が18時前後に退社する光景は珍し

くない。最終的には、残業なしで定時退社することに目標を置いていた」と佐野社長は話す。

結果、社員から「家族と一緒に夕食がとれるようになった」「終日フルスロットルで仕事をすることで、ただら仕事をするより体が楽になった」「付き合い残業がなくなり、精神的に楽になった」などの声があがっている。(佐野テック社長、三重県)



社員と談笑する佐野社長(左2人目)